

外来化学療法センターから院外処方せんを FAX 送信することによる 患者待ち時間の変化

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 薬剤科)

大野 恵一 目黒 裕史 本多 伸二 三松 史野
佐分利 美帆子 實光 由香 内藤 舞 寸田 靖
村岡 淳二

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 看護部)

本田 薫

(地方独立行政法人京都市立病院機構京都市立病院 腫瘍内科)

桐島 寿彦

要 旨

外来化学療法センターで治療を受ける患者は、院外処方せんが交付された場合、保険薬局における薬剤交付までの待ち時間も、帰宅までの時間が遅くなる要因となる。このたび、治療時間を活用した待ち時間の負担軽減を期待して、外来化学療法センターから院外処方せんの FAX 送信を開始した。開始前後での保険薬局における待ち時間の変化および FAX 送信の利便性を調査したところ、平均待ち時間の短縮が認められ、利便性については高評価を得られた。外来化学療法センターからの FAX 送信により、外来化学療法患者の身体的・精神的負担の軽減につながると考えられた。
(京市病紀 2021 ; 41 : 73-76)

Key words : 外来化学療法, 待ち時間, 保険薬局, FAX

緒 言

外来化学療法センターで治療を受ける患者は、通常、検査・診察の後に点滴治療が実施されるため、治療内容によっては、来院から帰宅まで長時間を要することがある。さらに院外処方せんが交付された場合は、保険薬局における薬剤交付までの待ち時間も、帰宅時間が遅くなる要因となる。

院外処方せんを事前に保険薬局へ FAX 送信することで、保険薬局では処方せん原本を受け付ける前に薬剤の準備が可能となり、その分待ち時間短縮が期待できる。多くの病院には院外処方せん送信用の FAX コーナーが設置されており、当院でも以前から院外処方せんの事前 FAX 送信は可能であった。しかし当院では会計後に院外処方せんが患者に交付されるため、FAX 送信先が近隣の薬局の場合は、一定の待ち時間が発生すると考えられる。そこで外来化学療法患者の点滴治療時間を活用し、保険薬局における待ち時間短縮による負担軽減を期待して、外来化学療法センターから院外処方せんを FAX 送信できる環境を整備し、2020 年 3 月より運用を開始した。

今回、外来化学療法センターから院外処方せんを FAX 送信することによる保険薬局における待ち時間の変化および利便性を評価するため、アンケート調査を実施した。

方 法

1. 対象患者および調査方法

2020 年 3 月 2 日から 2020 年 4 月 30 日の期間に外来化

学療法センターで治療を受けた患者 318 名のうち、今回運用を開始した FAX 送信を利用した全患者を対象に、アンケートを配布した。また、アンケートの回収期間は 2020 年 3 月 2 日から 2020 年 5 月 31 日とした。

2. 調査内容

アンケートにおける調査項目は、普段薬剤を受け取っている保険薬局(かかりつけ薬局)名、FAX 利用前・利用後のかかりつけ薬局における待ち時間、外来化学療法センターから FAX 送信を利用できることの利便性、その他自由記載の 5 項目とした(図 1)。

3. 統計解析

かかりつけ薬局における待ち時間の変化は、Wilcoxon の符号付き順位検定を用いて解析した。解析には、SPSS® Statistics 20 (IBM, Armonk, NY, USA) を用い、危険率 5% 未満 ($p < 0.05$) を統計学的に有意と判定した。

4. 倫理的配慮

アンケートは無記名の自己記入式で行うことにより、個人の特がでできないようにした。また、当アンケート調査は京都市立病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(受付番号 533)。なおデータ解析に際して、かかりつけ薬局名は匿名とした。

お薬待ち時間に関するアンケート

このたび、外来化学療法センターにFAXを設置しました。よろしければ、お薬待ち時間に関する以下のアンケートにお答えください。質問は5つあります。
なお当アンケートの結果は、院内資料として使用するほか、学会発表等に使用することがあります。学会発表等への使用に同意されない方は、右下のチェックボックスに☑を入れてください。

学会発表等への使用に同意されない方はチェック☑

●質問1
いつもお薬を受け取られている薬局はどちらですか？ 該当する薬局に○をつけてください。その他の薬局の場合は、薬局名を記載してください。

たんぼ薬局	ファーマシー薬局	オーツカ市立病院前薬局
御前ゆう薬局	アイランド薬局	アイン薬局西大路五条店
壬生ゆーあい薬局	アイン薬局五条御前店	

その他の薬局： _____

●質問2
今まで、薬局でのお薬待ち時間はどの程度でしたか？ 該当する時間に○をつけてください。

5分	10分	15分	20分	25分	30分
35分	40分	45分	50分	55分	60分以上

裏面に続きます

●質問3
FAX を利用した場合の、薬局でのお薬待ち時間はどの程度でしたか？ 該当する時間に○をつけてください。

5分	10分	15分	20分	25分	30分
35分	40分	45分	50分	55分	60分以上

待ち時間について、何かご意見などあれば自由に記載してください。

●質問4
化学療法センターから処方せんをFAX送信できることを便利だと思えましたか？ 1～5のいずれかに○をつけてください。また、その理由があれば自由に記載してください。

1	2	3	4	5
便利でない	あまり便利でない	普通	ある程度便利	大変便利

理由 _____

●質問5
その他、ご意見などあれば自由に記載してください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

図1 アンケート

結 果

1. 回答率

対象期間にFAX送信を利用した患者は28名であり、そのうち14名から回答を得た（回答率50%）。アンケートのデータ利用に同意を得られた13名のデータを解析した。

2. かかりつけ薬局

FAX利用患者のかかりつけの薬局の内訳は、近隣の薬局（概ね病院から500m以内）が10名、近隣以外の薬局が3名（500mから2km以内：2名、2km以上：1名）であった（図2）。

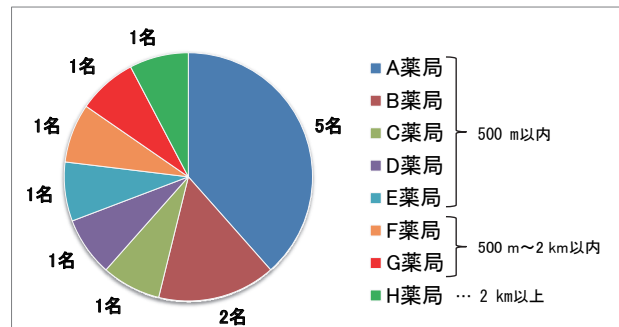


図2 かかりつけ薬局と当院からの距離

3. FAX利用前後の待ち時間の変化

かかりつけ薬局における平均待ち時間は、FAX利用前は27.7分、利用後は10分であり、有意な短縮が認められた（ $p < 0.01$ ）（図3）。

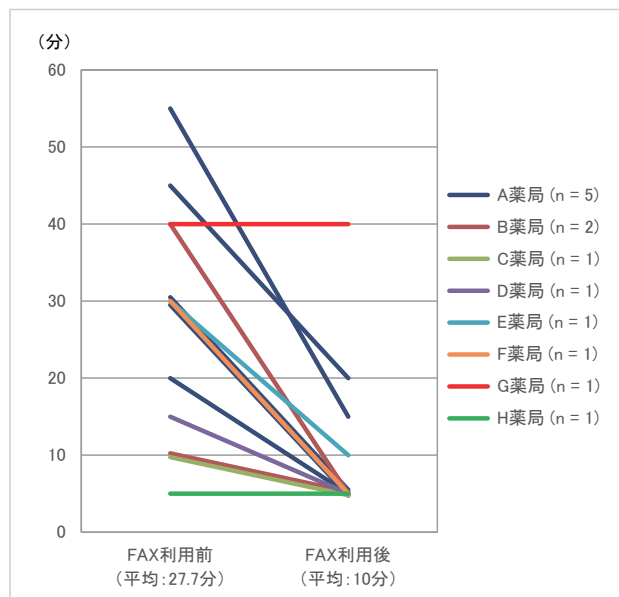


図3 FAX利用前後の待ち時間の変化

4. 利便性の評価

5段階の評定尺度法を用いて評価したところ、「5：大変便利」の回答が12名、「4：ある程度便利」の回答が1名であった。また、「3：普通」、「2：あまり便利でない」、「1：便利でない」との回答はなかった（図4）。

5. 自由意見

自由意見としては、待ち時間の短縮に関連した言及が見られた（表1）。

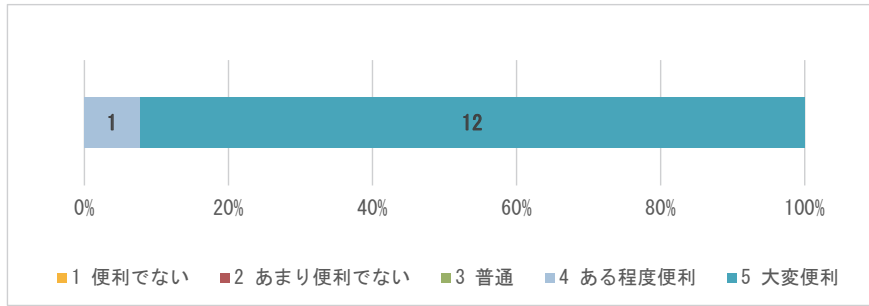


図4 外来化学療法センターからFAX送信できることの利便性の評価

表1 自由意見

自由意見(一部抜粋)

- ・診療、治療などが17時前後まで及ぶ時には、待ち時間の短縮と薬局の営業時間に影響を与えることも軽減でき、便利である。
- ・治療の後の予定をたてやすい。
- ・終わってからFAX送信していると遅くなる。待ち時間が長くなる。ただし、FAXを受信されても、見逃しがあれば何にもならない。これをきちっとしていただければ大変待ち時間が早くなる。
- ・点滴後、しんどい状況で待たなくていいのが助かります。
- ・FAX送信後薬局へ行くのに20分ぐらいだからそう変わらない。

考 察

FAX送信の利点は、患者が処方せん原本を持って薬局に到着するまでの時間に薬剤の準備をできることであり、多くの患者が利用している。当院では通常、外来診察の流れの最後に院外処方せんが交付される。処方せん交付窓口前にFAX送信機が設置されているが、送信後すぐに近隣の薬局に行く場合は短時間で到着するため薬剤の準備ができておらず、FAX送信を有効活用できない可能性が考えられる。今回外来化学療法センターからFAX送信を利用した患者のかかりつけ薬局は、多くが当院の近隣の薬局であった。したがって治療時間なども含めて時間を有効活用できたため、近隣の薬局を利用している患者では特にFAX利用後の時間短縮が認められたと思われる。またあらかじめ近隣の薬局へは今回のFAX送信が化学療法患者の負担軽減を目的としていることを情報提供しており、薬剤の準備を優先するなどの協力を得られたことも待ち時間が短縮した一因となった可能性も考えられる。一方で、待ち時間が短縮しない患者も認められた。これらの患者のかかりつけ薬局は当院から遠方であり、元々薬局への移動に要する時間内に薬剤の準備ができていたことから、待ち時間への影響は少ないと考えられた。

外来化学療法センターからFAX送信できることの利便性については高評価が得られ、待ち時間の短縮につな

がることや、治療後の予定を立てやすいなどの意見が挙げられた。一方で、処方箋の見落としについて言及した意見もあった。事前にFAX送信した場合であっても、薬局到着後に処方箋もれに気づいた場合などで疑義照会を要する際は、それらの対応と調剤により待ち時間が発生する。またFAX運用開始後に、治療終了直前にFAX送信依頼があり有効活用できる時間が短縮した事例があった。当院の外来化学療法センターには薬剤師が常駐しており、患者に生じた副作用の確認等を実施している。その際に処方内容の確認や必要に応じた疑義照会、FAX送信希望の確認なども行っており、今後も継続することで、かかりつけ薬局において余分な待ち時間を要することのないよう、患者負担の軽減に努めていきたいと考える。

なお今回解析したアンケートは13名分であり、少数例での検討であった。また外来化学療法センターで治療を実施した患者へはFAX送信が可能であることを周知していたが、実際にFAX送信を利用した患者自体が少数であった。したがって、以前から待ち時間が長いと感じていた患者の利用が多かったことで、待ち時間の短縮が認められた可能性も考えられた。

今回、外来化学療法センターから院外処方せんのFAX送信を開始したことで、保険薬局における薬剤交付までの待ち時間が短縮し、外来化学療法患者の身体的・精神的負担の軽減につながったと考えられる。

Abstract

Reduction of the Patient's Waiting Time by Sending the Prescription by FAX
from Outpatient Chemotherapy CenterKeiichi Ohno, Yuji Meguro, Shinji Honda, Shino Mimatsu,
Mihoko Saburi, Yuka Jikko, Mai Naito, Yasushi Sunda and Junji Muraoka

Department of Pharmacy, Kyoto City Hospital

Kaoru Honda

Department of Nursing, Kyoto City Hospital

Toshihiko Kirishima

Department of Medical Oncology, Kyoto City Hospital

Patients receiving chemotherapy in outpatient chemotherapy center must wait at the pharmacy to receive their medicines after treatment, which further delays the time they return home. As an attempt to shorten this waiting time, we started sending the prescription by FAX from outpatient chemotherapy center, while the patient was receiving treatment. We examined the change in the waiting time at the pharmacy before and after this attempt. The results showed that the waiting time was reduced and the evaluation of usefulness was high. We considered that the physical and mental burden of the patient receiving chemotherapy was reduced by sending the prescription by FAX from outpatient chemotherapy center.

(J Kyoto City Hosp 2021; 41:73-76)

Key words: Outpatient chemotherapy, Waiting time, Pharmacy, FAX